

(公社) 日本山岳会 栃木支部 第7回古道調査 実施報告書

1. 日 時 令和4(2022)年7月17日(日)
2. 場 所 鹿沼市～日光市 禅頂行者道(古峰ヶ原、行者岳、地藏岳、夕日岳、薬師岳)
3. 参加者 渡邊雄二(リーダー)、増渕仁一(計画輸送)、林祐寿(記録)
4. 行 程 登山口(7:40)－古峰ヶ原峠(8:22)－深山巴の宿(8:48)－古峰ヶ原峠(9:12)－行者平(9:55)－行者岳(10:02 着－10:22 発)－大岩山(10:54)－唐梨子山(11:22 着－11:39 発)－ハガタテ平(11:55)－地藏岳(12:25 着－12:37 発)－三ツ目(12:49)－夕日岳(13:05 着－13:20 発)－三ツ目(13:35)－1406ピーク(14:00)－1365ピーク(14:15)－薬師岳(14:35 着－14:46 発)－細尾峠(15:07)

5. 行動概要

今市の杉並木公園に6:30集合。増渕委員の計画輸送にお世話になり古峰神社へ向かう。雨予報ということもあり、古峰神社から先の車道は短縮し登山口まで車で向かった。ここで増渕委員と別れ、渡邊支部長と林の2名が山に入る。

登山口から10分程で「へつり地藏」が現れる。案内板によると、深山巴の宿(じんぜんともえのしゆく)での厳しい修行に耐えられず逃げた修行僧がここで捕らえられ、殺されたのを憐れんで建てられたとのこと。近代的な生活からは想像を絶する修行の過酷さとその時代の厳しさを思うと、これから向かう修験の道の歴史と重みに身が引き締まる思いがする。

荒れた旧車道を出たり入ったりショートカットするように登山道を進み、40分ほどで古峰ヶ原峠に出る。ここから深山巴の宿まで片道15分ほどの往復。巴の宿は今では鳥居といくつかの石碑等を残すのみだが、どこことなく神秘的な佇まいから往時の様子が偲ばれる。

古峰ヶ原峠に戻り行者道へ歩みを進める。しばらく旧車道(林道)を進むと地藏堂らしきものがあるが、小さな木造りの祠は屋根板や壁板がバラバラになっており、地藏も見当たらない。盗難にでもあったのだろうか。実は当日、これが首なし地藏かと思っていたが、どうやら別のようなものである。程なくして旧車道は終わり、大天狗之大神の鳥居をくぐると、いよいよ行者道に入る。こちら側はあまり歩かれていないのか、ところどころ踏み跡が乏しくなるが迷うことは無い。

樹林の中の道を30分ほど進むと行者平に着く。まるで管理されているかのようにきれいな平場が広がっている。ここから少しの急登で行者岳山頂に着く。ガイドには展望が利くところがあるが、樹林に囲まれているのとガスっているのとで何も見



へつり地藏



深山巴の宿



行者平

えない。小休止したのち出発する。

ここからも特徴のない樹林の道が続くが、途中、背後に巨石群を控えた金剛童子の石祠がある。巨石群は尖った大岩を縦に突き刺したように並んでおり、その様相が八竜とも言われている所以だろうか。個人的には、岩の形状が金剛のようにも見えて、それで金剛童子なのかと勝手に思案する。

大岩山のピークを越え、鞍部からしばらく登り返すと唐梨子山である。このピークは結構な広さがあり、ピークという感じがしない。当日はこの山名の読み方が分からず、2人とも？マークであったが、下山後ネット検索したところ、「カラリコ」「カラナシ」「ケナシ」など様々。それぞれが別の読みを否定していたりして、何が本当かよく分からない。唯一「カラナシ」だけがそのソース（鹿沼市観光交流課）をはっきり記載しており信頼できそうだが、真相は如何に。

唐梨子山を後にして少し下ると「竜の宿」という巨石が現れる。岩の割れ目から何本も樹木が伸びており、これを竜に見立てたのか、それとも竜がねぐらにするくらいの大岩ということなのか。いずれにしても神秘的な佇まいであり、いわゆるパワースポットのムードに満ちている。

さらに下ると広く開けた鞍部に着く。ここがハガタテ平であり、古峰神社へ下る分岐点でもある。ここから地蔵岳への登りとなるが、この登りが今日の最大の急登である。笹原の斜面をつづら折りや長いトラバースを経て、南面の尾根に出たのち登り詰めると地蔵岳に到着する。山頂近くにはその名の通り、地藏が祀られた石祠がある。天候が崩れた場合はここから戻り、ハガタテ平から古峰神社への下山も想定していたが、幸いここまで一滴も降らず、夕方まで何とか持ちそうなので、予定通り細尾峠まで縦走することにした。ここは携帯電話の電波状態も良く、増淵委員にその旨連絡できてホッとする。

地蔵岳から尾根伝いに15分ほどのひと歩きで夕日岳への分岐の三ツ目に到着する。ここから夕日岳へは片道15分ほどの往復である。夕日岳山頂からは日光連山の展望が良いらしいが、ガスっていて何も見えない。またガイドにはヤシオツツジの群落とあるが、花びらがすこし落ちていくくらいで時期が遅かったようだ。東側の尾根に道が伸びているようなので少し偵察してみたが、すぐ道はなくなる。ただし、きれいな尾根筋が伸びており、ガイドによれば夕日岳新道という道がある（あった）ようだが、今は廃道になっているらしい。



金剛童子の石祠



唐梨子山



竜の宿



地藏岳

小休止後三ツ目に帰り、薬師岳を目指す。コグマザサに覆われた足元には明瞭な登山道が続いており、明るい樹林帯と相まって気持ちの良いルートである。ハガタテより南側とは山の雰囲気も変わってくる。基本的には細かいアップダウンを繰り返す尾根歩きだが、ところどころ現れる急傾斜や痩せ尾根など、飽きがこない。また石祠がいくつも現れ、修験の道であることを改めて思い出される。

1365 ピークをトラバースでやり過ごした後、尾根に戻りしばらく行くと不動明王座像と石祠がある。ここが掛合宿らしい。石祠のすぐ後ろには尾根の斜面を切って作ったと思われる平場がある。ここに宿があったのだろう。

ここからひと登りで薬師の肩を経由し薬師岳山頂に着く。山頂近くにはいくつもの石祠がある。山頂から東側の尾根道を辿れば清滝に下山できるようだが、今日は細尾峠が最終目的地だ。

少し薬師の肩の方へ戻ったところに細尾峠への分岐がある。ここから急傾斜の道を20分程下ると細尾峠に到着する。細尾峠には増渕委員が車を回して待っていてくれた。今回のような縦走を効率よく行うには、こういうご協力があってこそであり、大変ありがたいと思う。

天気予報から雨中の行動は覚悟のうえであったが、結果的に全く降られずに済み、望外の調査山行となった。逆に今回の行程中、ルート上で他の登山者に一人も会うことが無かったが、これも昨今の確度が高い天気予報の功罪だろうか。(記録：林)



三ツ目から薬師岳への尾根道



三ツ目から薬師岳への尾根道と石祠



不動明王座像



細尾峠にて